

みどりの丘

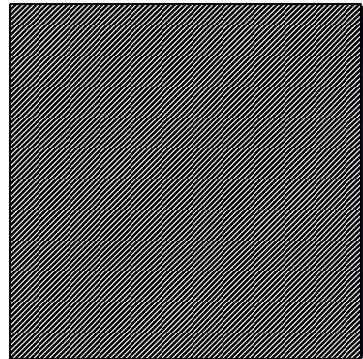
成田市立吾妻中学校
令和7年度第12号
R8.1.30

《学校教育目標》

「次代をひらき、心豊かにたくましく、生きる力を身につけた生徒の育成」

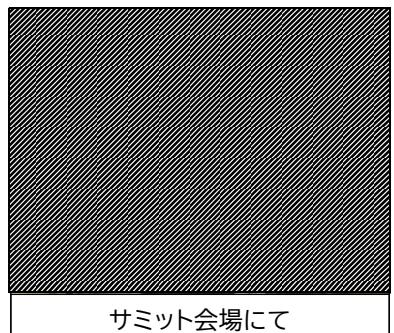
～今、求められていることは…～

皆さんは、何かを「知りたい」と思ったとき、どうしていますか？かつては、たくさんの知識を頭に詰め込んでいる人が「賢い」とされる時代でした。しかし、今やスマートフォンを開けば、世界中の知識に一瞬でアクセスできます。さらに、生成AIの登場により、私たちが問い合わせれば、AIが瞬時に答えをまとめてくれるようになりました。こうした時代において、今、皆さんに最も求められているのは、単なる「知識の量」ではなく、AIやネットから最良の答えを引き出すための「プロンプト（問い合わせる力）」です。例えば、AIに「カレーの作り方を教えて」と聞けば、一般的なレシピが返ってきます。しかし、「キャンプ場で、小学生でも30分で作れる、包丁を使わないカレーのレシピを教えて」と問えば、ひき肉やカット野菜、市販のルーを使った特別なアイデアが返ってきます。自分の置かれた状況を正確に言葉にする力が、自分にとってのより精度の高い「正解」を引き出すのです。ネット社会を生き抜く術（すべ）とは、いわば「言葉を使いこなす力」です。自分が何を求めているのかを整理し、的確な言葉で外の世界（あるいはAI）へ投げかける。この「問い合わせ」の精度こそが、皆さんのこれから武器になります。「では、勉強して知識を蓄える必要はないの？」と思うかもしれません。それは違います。質の高いプロンプトを作るためには、自分の中に「材料」が必要です。幅広い知識や経験があるからこそ、「もっとこう聞けばいい答えが返ってくるはずだ」という発想が生まれます。学校での学びは、この「最高の道具」を使いこなすための基礎体力をつけています。どんなに便利な道具があっても、それを使う皆さんのが「気づき」がなければ意味がありません。「何が正しいのか」「自分はどうしたいのか」。膨大な情報の海に飲み込まれるのではなく、自ら問い合わせを立て、情報のハンドルを握ってください。正しい問い合わせを立てられる人は、どんなに変化の激しい社会でも、自分の力で進むべき道を見つけることができます。皆さんにはそういった「問い合わせる力」を、中学校生活の中で磨いていってほしいです。



～全国いじめ問題子供サミットに参加～

1月24日（土）に文部科学省主催の「全国いじめ問題子供サミット」が東京都千代田区霞が関の文部科学省講堂で開催されました。本校からは千葉県を代表して生徒会本部役員3名が参加してきました。このサミットは生徒の主体的な活動に積極的に取り組んでいる学校の生徒が集い、交流する機会を設けることにより、このような活動の中心となるリーダーを育成するとともに、全国各地で創意工夫をこらした多様な取組を推進することが目的となっています。特に今年のサミットのテーマは、「『ネットいじめ』をなくすために私たちにできること」ということで、皆さんにも身近なテーマでした。今回のサミットで情報交換をしてきた内容を今後の生徒会の活動に大いにいかしていってくれることを期待しています。



サミット会場にて

～食に関する授業を実施～

毎年1学年を対象に「食に関する授業」を実施しています。今年も給食センターから栄養士の先生を招いて、私たちの健康に欠かすことができない栄養素、とりわけ成長期である今の時期に欠かすことができない栄養分、それを摂取するための望ましい食習慣についてお話をもらいました。中学校の3年間は心も体も大いに成長する時期です。食べる量を不自然に制限して必要な栄養分が体内に入らなくなると、今だけではなく将来にわたって不調をきたすこともあります。



食に関する授業の様子

そんなことを学ぶことができた時間でした。2、3年生の皆さんもかつて受けた「食に関する授業」を思い出し、自分に必要な栄養についてあらためて考えてみてください。

オープンスクールを実施します。

2月3日（火）～6日（金）はオープンスクールとなります。お子様の様子を参観していただけると幸いです。